

背景と目的

近年、ツマジロクサヨトウ(FAW)やカンキツグリーニング病(HLB病)等の高い移動能力を有する越境性病害虫が、アジア・太平洋地域においてまん延しています。これらの病害虫は、薬剤抵抗性等の発達等の変異により、大きな被害を生じうるリスクが高く、アジア・太平洋地域全体で調査・防除等の管理に取り組む必要があります。

本事業では、植物防疫に関して我が国が有する様々な知見やノウハウを、FAOアジア太平洋地域事務所を通じて、アジア・太平洋地域に提供するとともに、これらの病害虫の情報収集を行うことで、我が国を含めたアジア・太平洋地域全体の食糧安全保障に貢献することを目的とします。

主な活動内容

- ・ FAOアジア太平洋地域事務所(タイ・バンコク)への専門家派遣(2020~2024年)
- ・ FAW対策のファーマーフィールドスクール(FFS)に関するウェビナー(2023年3月15日)
バングラデシュ、フィリピン農業省によるFFSの実施事例を共有
- ・ カンキツグリーニング病(HLB)に関するウェビナー(2023年4月13日)
HLBやそのバクテリア(ミカンキジラミ)のアジア・太平洋地域でのモニタリング・管理の事例紹介
- ・ 自然を活用した解決策(NBS)/総合防除(IPM)ウェビナーシリーズ(2024年11月20~22日)
生物的防除資材の応用事例やFAWの殺虫剤感受性モニタリングについて紹介
- ・ FAW及びIPMトレーニング教材の開発(マニュアル)

事業成果

FAWやHLB等をテーマとしたワークショップ/ウェビナーを通して、アジア・太平洋地域の病害虫の管理体制の強化に貢献しました。加えて、アジア・太平洋地域の各国との連携を強化することで、日本のアジア・太平洋地域における立場をより強固なものとしています。

本事業は我が国に対するFAWやHLB等の侵入リスクを下げることにより、これらの病害虫による我が国における農業被害を抑えることに貢献します。また、これらの病害虫のまん延を防止することは、輸出における植物検疫上の条件を有利なものとし、農産物の輸出にも裨益します。



インドネシアでのワークショップ



ネパールでのワークショップ



トウモロコシ葉上のツマジロクサヨトウ